

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 データサイエンス教育委員会

(責任者名) 柊澤恭子

(役職名) データサイエンス教育委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		<p>令和7年度より本学では、全学的に数理・データサイエンス・AI教育を推進するため、全学部・全学科の学生が対象科目を履修できるようカリキュラム改正および学則変更を行い、必要科目を体系的に配置している。履修状況については、教育内容を所掌するデータサイエンス教育委員会が科目の運営状況を把握し、教務学生課が履修者数等の学修関連データを継続的に収集している。</p> <p>令和7年度における「開智数理・データサイエンス・AI教育プログラム ベーシックレベル」の必須科目「データサイエンス概論A」の履修者は90名であった。同科目の合格率は77.8%であり、全学的な周知や履修指導を通じて学修への動機づけと基礎理解の定着が進んだ結果であると考えられる。</p>
学修成果		<p>本学では、学生が段階的に必要な知識・技能を身につけられるよう、ベーシックレベルとスタンダードレベルの二段階からなる教育プログラムを設け、それぞれに学修成果と修了基準を設定している。令和7年度はプログラム初年度であり、成果データは蓄積途上であるが、小テストや課題等を通じて理解状況を把握している。今後は、学修成果の可視化を一層進めるため、各レベルに応じたルーブリック評価の導入について具体的な検討を進める予定である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		<p>全学で実施している授業評価アンケートの結果をもとに、「データサイエンス概論A」の理解度について分析を行った。本科目の有効回答数は74件であり、内訳は「よく理解できた」18件、「まあまあ理解できた」53件、「あまり理解できなかった」3件、「全く理解できなかった」0件であった。肯定的回答は約96%に達し、多くの学生が授業内容を理解していると判断できる。</p> <p>今後は質問時間の確保や補足説明の充実を図るとともに、後期開講のオプション科目でも同様のアンケートを実施し、学修理解度の把握と授業改善に活用する予定である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		<p>プログラムの必須科目「データサイエンス概論A」に関する授業評価アンケートでは、授業が分かりやすく、教員による丁寧なサポートや演習中心の構成が学びやすさにつながっているとの意見が多く寄せられ、本プログラム未履修者(後輩等)への推奨度も高いといえる。パソコンを活用した演習形式の授業は一定の実践性を有しており、Excel等の操作習熟を評価する声が多かった。加えて、学習意欲の向上につながる工夫を求める意見も一定程度見られた。</p> <p>今後はデータサイエンス教育委員会において授業内容のさらなる充実と改善策について検討を進め、学修支援の質向上を図る予定である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		<p>令和7年度よりカリキュラムの一部改正を行い、全学的な取り組みとして「開智数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を新設した。令和7年度は、本プログラムの認定に必須となる1科目に加え、オプション科目2科目を開講した。必須科目「データサイエンス概論A」は選択科目であるが、4月の履修ガイダンスにおいて内容を詳しく説明した結果、履修率は全学生の約11%に達した。</p> <p>今後はさらなる履修者拡大に向け、周知方法や広報体制の改善に取り組む予定である。</p>

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムは令和7年度より開始されたものであり、令和7年後期時点では修了者はいるものの、卒業に至った者はまだいない。そのため、修了者の進路状況や社会における活躍の把握・活用は、今後の重要な課題である。本学においては、卒業生を対象とした進路調査を一定期間後に実施しており、本プログラムの修了者についても、同様の方法により進路先や活躍状況を系統的に把握することを想定している。</p> <p>また、本プログラムの設計にあたっては、教育目的及び教育内容を十分に検討・策定している。今後は、関係機関等からのフィードバックを収集・分析し、教育内容の更なる充実・改善に反映させる計画である。</p>
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本教育プログラムの設計にあたっては、産業界の動向に加え、学校教育をはじめとする外部の教育現場の知見を踏まえつつ、教育目的および教育内容を検討し、数理・データサイエンスおよびAIの基礎教育の充実を重視している。また、社会的要請に応える教育の在り方を踏まえ、内容の妥当性や実効性を確保するよう配慮している。</p> <p>今後は、産業界や教育現場から得られるニーズを適宜把握し、それらを教育課程の改善に継続的に反映させることで、教育内容の一層の充実を図る方針である。</p>
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>当該教育プログラムの必須科目「データサイエンス概論A」は各学部で選択科目として配置され、データを読み取り活用する力がSociety5.0社会のビジネスや教育現場でどのように役立つかを理解することを通じ、データ利活用の意義や可能性を学ぶ内容となっている。</p> <p>また、学習過程ではデータサイエンスを学ぶ楽しさや、実務・教育の双方で活用できる知識を習得する意義を実感できる構成とされている。さらに、「AI概論」ではDXの進展と関連した人工知能(AI)の基礎を学び、ケーススタディ等を通して社会・教育・ビジネスでの活用可能性を理解することを目的としている。</p>
	<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生に対しては各学期末に授業評価アンケートを実施し、本教育プログラムの対象科目すべてについて、授業の分かりやすさや満足度、改善点の把握に努めている。アンケート結果は科目担当者が点検・評価を行い、内容や水準が学生に適切であるかを確認し、教育の質向上に向けた改善に活用している。</p> <p>令和7年度より本プログラムを開始しており、今後はデータサイエンス教育委員会において教育内容・授業方法の評価や改善を継続的に行い、社会の変化や生成AIなどの技術発展を踏まえ、より分かりやすく教育効果の高い授業の充実を図る予定である。</p>